



Part 1 (新着資料から)

〈BOOK〉『Comprehensive Enantioselective Organocatalysis』

(Wiley-VCH 2013)

医薬品創製において、立体選択的に不斉炭素を構築する反応は非常に有用である。そのため、20世紀後半から金属触媒を用いた反応が多く開発されている。しかし、金属触媒は、毒性やコストの観点から工業レベルでの使用には制限を受けていた。一方、約15年前より、金属を使わない有機触媒と呼ばれる新たな触媒が見出され、近年急激な発展を遂げている。有機触媒 (Organocatalyst) とは有機分子触媒とも呼ばれ、米国プリンストン大学の MacMillan 教授が提唱した言葉であり、金属原子を含まず、炭素、水素、酸素、窒素などの元素から成り、触媒作用をもつ低分子化合物のことを指す。本書は、有機触媒を用いる反応のうち、不斉反応に焦点

を絞り、開発の経緯や最先端の研究が記載されている。また、触媒の種類、触媒の化学的性質および反応の種類によって分類されており、如何にして有機触媒化学が急激な進化を続けているかを知ることができる。例えば、有機触媒化学の今日の発展の発端となった京都大学の丸岡教授が開発したキラル相関移動触媒 (丸岡触媒[®]) やアミノ酸であるプロリンを触媒とする研究について詳細に述べられている。したがって、世界の動向を知るだけでなく有機触媒化学の入門書としても本書は有用である。

准教授 上田 昌史
(薬品化学研究室)

〈DVD〉『終わりのない生命の物語』

(丸善出版 2013 全7巻)

この新着 DVD は、副題に「7つのケースで考える生命倫理」とあるように、医療の現場で出会う代表的な倫理的問題を7つ取り上げドラマ仕立てにしたものです。各巻の内容は、ケース1「私たちの選択」(出生前診断)、ケース2「白い遺言状」(リビングウィル)、ケース3「生きていく理由」(エンド・オブ・ライフケア)、ケース4「知りたくて」(AID チルドレン)、ケース5「見えない終止符」(不妊治療)、ケース6「ある家族の事情」(認知症高齢者の医療)、ケース7「ぬくもりの境界線」(小児脳死移植)、となっています。各巻の収録時間は10分から16分で、12分というのが標準的な時間です。それぞれのテーマに関して代表的な内容をシナリオにして、俳優が演じるという体裁です。いずれのケースも焦点は、倫理的問題に直面した時の患者とその家族の反応の仕方や考

え方の相違や迷いに当てられており、それらの迷いや葛藤の中に各テーマの主要な問題点が凝縮され表現されるという形式になっています。時にそういった患者や家族の迷いや葛藤に対する医療専門職側の感想や考えが挿入され、テーマのもつ意味合いの深さを捕捉し確認することもされています。演出や映像の処理の仕方により、それほど深刻な思いをしなくても見る内容に仕上がっていると思われました。直接的な体験をなかなかできない中、こういった教材を利用することで、少しでも患者や家族の置かれている状況を体感しディスカッションする機会をもてることはいいことではないかと思います。

准教授 松家 次朗
(社会科学研究室)

もくじ CONTENTS

ブックガイド part1 (新着資料から)	
上田昌史・松家次朗	1
ブックガイド part2 (専門分野別) 加藤郁夫	2
楽しい英語 e-ラーニングと英語読書のお話	
玉巻欣子	3

受入図書から	4~5
Topics	6
グラフと表で見る図書館統計	7
薬剤師のための DI 資料 (28) 杉山正敏	8
2014 年度学術雑誌について・お知らせ	8



part 2 (専門分野別)
BOOK GUIDE



『内分泌学って…意外におもしろい!?!』

教授 加藤 郁夫
(病態生化学研究室)

私達の身体の中では、多彩な作用を持つ物質が複雑かつ巧妙に調和して全身の器官に作用し、生命を維持し、生体の恒常性を保っています。これらの正常な機能を保つのに必要な機構が内分泌です。

本稿では、かなり古いお話ですが2人の科学者が、視床下部ホルモンの研究に夢とロマンを抱いて壮絶な競争を行った結果、ノーベル賞を同時受賞した話が掲載されている「ノーベル賞ゲーム：科学的発見の神話と実話」(丸山工作編)をご紹介します。

1950年、英国の解剖学者であるG.W. ハリスが、視床下部に存在するある種の物質が下垂体前葉に作用し、下垂体ホルモンの分泌を調節しているという仮説を提出しました。それ以来、視床下部から、存在の有無も不明なこれらの因子を単離しようとする極めて困難な研究が開始されましたが、その壁は厚く、その後20年間も多くの研究者の挑戦を阻み続けてきました。

1969年、視床下部研究の歴史における初めての輝かしい業績が米国の2つのグループからほぼ同時に発表されました。A.V. シャーリー(チューレン大学)のグループとその憎い宿敵であるR. ギルマンのグループ(ソーク研究所)による甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TRH)の構造決定に関する研究です。もともとシャーリーはギルマンの下で共同研究者として働いていましたが、研究方針の違いから相互不信に陥り、強烈な確執が生まれていたことは有名な話です。ともかく、ギルマンとシャーリーの最初の闘いは引き分けに終わりました。

TRHが、3つのアミノ酸からなるペプチドであることがわかり、それまで夢物語であった研究が現実のものとなり、2人の死闘とも言うべき激烈な競争の始まりとなりました。第2ラウンドの始まりです。

次のターゲットは黄体形成ホルモン放出ホルモン(LH-RH)であり、シャーリーはLH-RHの構造決定にあたっては細かいテクニックに長け、真面目で権利を主張しない日本人科学者を雇い入れることを考え、日本から松尾博士(現国立循環器病センター名誉所長)を招聘しました。また、留学していた馬場博士(元第一三共)とチューレン大学内科学教室

の有村博士(故人)がこれに加わりました。

1971年1月、研究室を初めて訪れた松尾博士にシャーリーはいきなり冷凍庫から取り出した小さな試験管を渡し、「これがLH-RHだ。16万5000頭のブタ視床下部から集め、10年かけて精製してきたものだ。ギルマンだけには負けたくない。1日も早くLH-RHの構造を決定して欲しい。そして、ギルマンを叩きのめしてやりたい。」と口汚くギルマンを罵り、松尾博士を驚かせました。しかし手持ちのLH-RHの純度は30%程度(250 μ g相当)、しかも研究室の設備は驚くほど貧しく、安い試薬や器具でさえなかなか買わせて貰えないなど、悲惨な状態からのスタートでした。松尾博士らは綿密な実験計画と持ち前の実験技術で、約4カ月という驚異的なスピードでLH-RHの構造決定を行い、シャーリーが勝利を収めました。シャーリーは、この成果を視床下部研究の主だった研究者が集まる1971年5月の「性腺刺激ホルモンに関するシンポジウム」ではなく、同年6月の内分泌学会で発表しました。座長であるギルマンの前で…。

ギルマンのこの敗北は、そのまま次のエネルギーに変えられ、1973年ソマトスタチンの構造決定に成功しました。シャーリーのそれはギルマンから3年も遅れた1976年のことでした。ギルマンの圧勝となった第3ラウンドでした。

こうして、ギルマンとシャーリーの長い闘争は1つの結末を見ました。1勝1敗1分けのストックホルムへの3つの戦いでした。

1977年、松尾博士がソーク研究所のギルマン博士を訪ねました。ギルマンは、松尾博士を最高の讃辞と非常な好意で迎えたということです…裏を返せば、シャーリーの力を認められなかったのかも知れません!?

理由はどうあれ、決闘と呼ぶしか無い2つの研究チーム間での戦いが、新しい内分泌学の展開のきっかけとなる極めて大きな業績であることは間違いありません。皆さんに「内分泌学」で講義する多くのホルモンには、多かれ少なかれこのような背景があります。ホルモンの分泌調節や生理作用を勉強しながら色々想像してみたいかですか?夢とロマンを感じるかも知れません。

楽しい英語

e-ラーニングと
英語読書のお話

准教授 玉巻 欣子
(英語第三研究室)

私は e-ラーニングを利用した英語の授業と、e-ラーニングは使わない医療・薬学英语の授業を担当しています。そこで本稿ではまず、私が授業で利用し、皆さんも自宅や学内で自由に学習できる英語 e-ラーニング学習システム「ALC NetAcademy2」について紹介します。次に、e-ラーニングで英語に自信をつけた皆さんが（勿論 e-ラーニングをやっていない皆さんも）手に取ってみると面白そうな英語の本について紹介します。

ALC NetAcademy2 の楽しみ方

本学では、英語の授業時間数が少なくなる 2 年生以降も継続して英語を勉強できるように、英語 e-ラーニング学習システム「ALC NetAcademy2」を導入しています。

本学で導入しているのは「スーパースタンドコース」「医学英語<基礎>コース」「ライフサイエンス英語コース」の 3 コースです。TOEIC 対策のコースは「スーパースタンドコース」です。このコースにはリスニングとリーディングが各 50 ユニットと、TOEIC の縮小版の演習問題が入っています。リスニングもリーディングもトピックがバラエティ豊かで飽きません。例えばリスニングのトピックには「こうすれば減らせる！あなたの食べる量」や「万里の長城が私物化されている！」や「D・ラドクリフーハリー・ポッターを語るー」なんていうものもあります。実際の試験のように一回勝負で聞くのもよし、何度も繰り返して聞くのもよし、自分のペースで勉強できるのが e-ラーニングのよいところ。英語音声聞いてシャドウイングなどの練習もできます。リーディングの方もトピックはバラエティに富んでいます。リーディングの目玉はなんとと言っても WPM (word per minute の略で 1 分間に読めるワード数のこと) を簡単に測定できることです。START ボタンを押して問題文を読み始め、読み終わったら FINISH ボタンを押します。するとあなたのリーディングの速さが表示されるのです。「医学英語<基礎>コース」は、医学英語語彙や、問診のリスニング、医療系トピックのリーディングを通して基本的な医学英語を学ぶコースです。強みは音声聞きながら医学英語語彙を勉強できること。クイズ形式で勉強できます。問診のリスニングでは医師役になったり患者役になったりしてロールプレイ

ができます。臨場感を持ってスピーキング練習することができます。「ALC NetAcademy2」を利用して楽しく英語力アップを目指してみませんか。ログイン方法は Web 掲示板で流していますので気軽にログインして下さいね。(ログインできるのは 2 年生からです)

読んでみたい英語の本

e-ラーニングも楽しいですが英語の本を読むのもまた楽しいものです。一見分厚くて難しそうに見えるけれど意外に面白いのが英文の理系テキストです。例えば「Essential Cell Biology」。これは細胞生物学の世界的ベストセラー・テキストですが、驚くほど分かりやすい英語で書かれています。きれいな写真や図が満載で、分かりやすくてちょっと笑ってしまう例示もあります。このような英文テキストの特徴は、知識の詰め込みだけでなく、読者に考えさせる問がつけられていること。「このような仕組みを取り入れることによって細胞にはどのような利点があるのだろうか?」のような具合に。図書館に原書も邦訳版もありますので一度ご覧あれ。

次に紹介したいのは楽しく読める洋書です。いわゆる「Self-Help」ものと言われるジャンルの本。あまり分厚くなく、英語も分かりやすくて話も適度に面白く、こんな本を授業で使ったらみんな英語が好きになるかも! ? と思います。例えば「What I Wish I Knew When I Was 20」。著者がスタンフォード大学での集中講義で学生に課した「5ドルの元手を使って2時間でできるだけ多く稼げなさい」という課題に対し学生たちが考え出したユニークな取り組みが冒頭で紹介されていて引き込まれます。その他にも「自分の失敗履歴書を作って失敗から学ぶ」など意外な角度から自分の生き方を考えるヒントが得られそうな本です。邦訳も出ています。(今 YouTube では著者の Tina Seelig の講義風景も閲覧できます。)「Self-Help」系の洋書には他にも「Chicken Soup for the Soul」など今では有名なシリーズがあります。図書館に、若者向け、医療関係者向けのタイトルが入っています。どれもスラスラと読むことができるので英語に対する自信につながると思います。

英語 e-ラーニングや英語の本。興味が持てそうなものから色々試してみてくださいね。

書名	著(編)者名	出版者
有機化学の理論 第4版補訂	山口達明	三共出版
基本的な考え方を学ぶ無機化学	小村照寿	三共出版
医用放射線辞典 第5版	医用放射線辞典編集委員会	共立出版
専門家が答える暮らしの放射線 Q&A	日本保健物理学会	朝日出版社
薬学の基礎としての物理学	日本薬学会	東京化学同人
薬学領域の機器分析学 第2版	財津潔他	廣川書店
最新天然物化学 第2版	奥田拓男	廣川書店
見つける、量る、可視化する! 質量分析実験ガイド	杉浦悠毅他	羊土社
呼吸器 第2版(病気がみえる4)	医療情報科学研究所	Medic Media
ビタミンDと疾患 改訂版	岡野登志夫	医薬ジャーナル社
薬剤師のための臨床検査の知識 改訂5版	池田千恵子	じほう
基礎からわかる感染症	本田順一他	ナツメ社
チーム医療を成功させる10か条	福原麻希他	中山書店
薬剤師業務の基本(新ビジュアル薬剤師実務シリーズ)	下平秀夫他	羊土社
こども×くすりの盲点	小嶋純	南山堂
ここが知りたかった OTC 医薬品の選び方と勧め方	坂口真弓	南江堂
医薬品情報評価学:何を信じるべきか,その根拠とは...	小佐野博史他	京都廣川書店
医師・薬剤師のための医薬品副作用ハンドブック	寺本民生	日本臨牀社
薬剤師に役立つ医療安全管理の考え方	政田幹夫他	医薬ジャーナル社
図解薬害・副作用学:みてわかる薬学	川西正祐他	南山堂
これからの社会薬学 改訂第2版	福島紀子他	南江堂
100の事例に学ぶ調剤過誤防止	林紘司他	日経BP社
病院薬局製剤事例集	日本病院薬剤師会	薬事日報社
図解製剤学:みてわかる薬学	杉林堅次	南山堂
ワクチンと予防接種の全て 改訂第2版	大谷明他	金原出版
薬学領域の食品衛生化学	長澤一樹他	廣川書店
ポリフェノール:薬用植物および食品の機能性成分	波多野力	シーエムシー出版
疫学と人類学	ジェームズ A. トゥロースル他	メディカル・サイエンス・ インターナショナル
エイズの起源	ジャック・ペパン他	みすず書房
衛生薬学:健康と環境 第5版	永沼章他	丸善出版
漢方服薬指導ハンドブック	宮原桂	源草社
次世代医薬開発に向けた抗体工学の最前線	熊谷泉	シーエムシー出版
日本化粧品成分表示名称事典 第3版	日本化粧品工業連合会	薬事日報社
医薬品産業の過去・現在・未来	藤田芳司	医学評論社
分子細胞生物学事典	村上康文	みみずく舎
iPS細胞の世界:未来を拓く最先端生命科学	山中伸弥他	日刊工業新聞社
遺伝子とタンパク質のバイオサイエンス	杉山政則他	共立出版
マウス実験の基礎知識 第2版	小出剛	オーム社
最新生理活性脂質研究(遺伝子医学MOOK24)	青木淳賢他	メディカルドゥ
薬学領域の生化学 第2版	伊東晃	廣川書店
スタンダード免疫学 第4版	小林芳郎他	丸善出版
薬科微生物学 第6版	加藤文男他	丸善出版
人類進化大全 改訂普及版	クリス・ストリンガー他	悠書館
ストレス百科事典	George Fink他	丸善出版
医学への統計学 第3版	丹後俊郎	朝倉書店
菌類の事典	日本菌学会	朝倉書店
21世紀の分子生物学(英語論文セミナー)	渡辺公綱他	講談社
キクタンメディカル:聞いて覚える医学英単語	高橋玲	アルク
あなたは"お大事に"と英語で言えますか?	蝦名玲子他	医療タイムス社
からだの地図帳 新版	佐藤達夫	講談社

(化学・医学・薬学分野より一部抜粋)

『世界の英語を映画で学ぶ』

山口美知代 編著 浅井学 [ほか] 著 松柏社

洋画を鑑賞するとき、学校の教材で耳慣れた標準的アメリカ英語以外の英語を聞くことがある。本書は、アメリカ英語だけでなく、イギリス、アイルランド、オーストラリア、インドなどそれぞれの独特な発音や言い回しについて、実在の映画を通して解説している。ネイティブ以外の英語が、間違いも含めて台詞に反映されていることも指摘されていて興味深い。本書を読んでから映画を見るか、見てから読むかは、皆さん次第です。

(T)



『「緑」の雑学事典』

北嶋廣敏 著 グラフ社

私たちは、食物として、薬(生薬)として、酸素を作り出してくれるものとして、また心を癒してくれるものとして、植物の恩恵を多く受けており、植物無しでは生きていけない存在です。そんな植物に関する研究書はたくさんありますが、本書は堅苦しい内容ではなく、意外と知らない植物の常識や不思議がたくさん詰まった雑学本です。ちょっと知っていたら誰かに自慢できるかも…。是非、息抜きに読んでみて下さい。

(N)



『戦場のピアニスト』

ウワディスワフ・シュピルマン 著 佐藤泰一 訳 春秋社

この本の題名を聞いたことがあるという人は多いと思います。では、実際にこの本を読んだことがあるという人はどうでしょうか。第二次世界大戦のさなか、ドイツの支配下にあるワルシャワで生活するユダヤ人の主人公とその家族。街の風景や人々の表情、そして主人公自身のその時の思いが細かく描写されています。私たちにはそれを想像することしかできません。景色、におい、音、味、質感、五感のすべてを頭の中で感じてください。

(H)



『新世界より』

貴志祐介 著 講談社

遠き山に 日は落ちて…。誰もが一度は耳にしたことのある、ドヴォルザークの交響曲『新世界より』の一節です。聞くと何故か切ない気持ちになる方も多いと思います。この本は、そうした昔懐かしさとSFを絡み合わせ、まったく異なる新しい世界を綿密に描いています。設定、テーマ、描写、どの点においてもとても面白いです。三編構成ですが一息に読んでしまいました。まだ読んでおられない方は是非!おすすめですよ!

(Y.K.)



『誤飲』

仙川環 著 小学館文庫

医療機関の経営コンサルタントをしている夫が、自身は欲しくない子供に憧れる妻にビタミン剤と偽り処方した薬は…

2002年、「感染」で小学館文庫小説賞を受賞した、医療ミステリーの第一人者である仙川環さんの作品です。連作短編集になっていますが、それぞれに話が繋がっていて、テンポ良く読める作品です。

誰もが日常的に手にしている薬を話題にしているので、手軽に手にとってほしい作品です。

(P)



『僕らが世界に出る理由』

石井光太 著 ちくまプリマー新書

大学1年生、初めての海外で単身パキスタン、アフガニスタンに飛び込んだ経験を持つ著者。荷物は着替えとカメラと少しのお金のみ。その彼による、なにかを成し遂げるための考え方とヒントが詰まった一冊です。「若いうちに海外に行っておいたほうが良いよ!」とはよく聞くフレーズですが、その理由を明確に説明してもらうことはなかなかありません。海外へ行く気がない人にもぜひ読んでもらいたい本です。

(K.I)



Topics

私たちの身近には、さまざまな知識や情報があ

ふれ、その形態も多様化しています。最近では電子ジャーナルについての問い合わせも増え

てきました。そこで「電子ジャーナルと図書館」と題して、

図書館に寄せられた質問事例をご紹介します。また、図書館からの情報発信ツールである

「ポータルサイトとしての図書館ホームページ」をご案内します。

迷ったり困ったりした際は、ぜひ図書館をご活用ください。

電子ジャーナルと図書館

Q 他大学などから複写文献を取り寄せる際、電子ジャーナルのPDFデータでほしい。

A 論文を文献管理ソフトなどで保存・管理するスタイルが一般的な昨今、お問い合わせが多いのが他機関所蔵の資料もPDFで取り寄せたいというご希望です。残念ながら、図書館では**現状の法律、関係各団体とのガイドラインや契約に合わせて資料を提供しています**ので、他機関より取り寄せる電子ジャーナルは、紙面に再生した複製物(コピーあるいはプリント)しかお渡しできません。どうしても必要な場合、出版社のホームページ等より個人的にご購入いただくことになります。

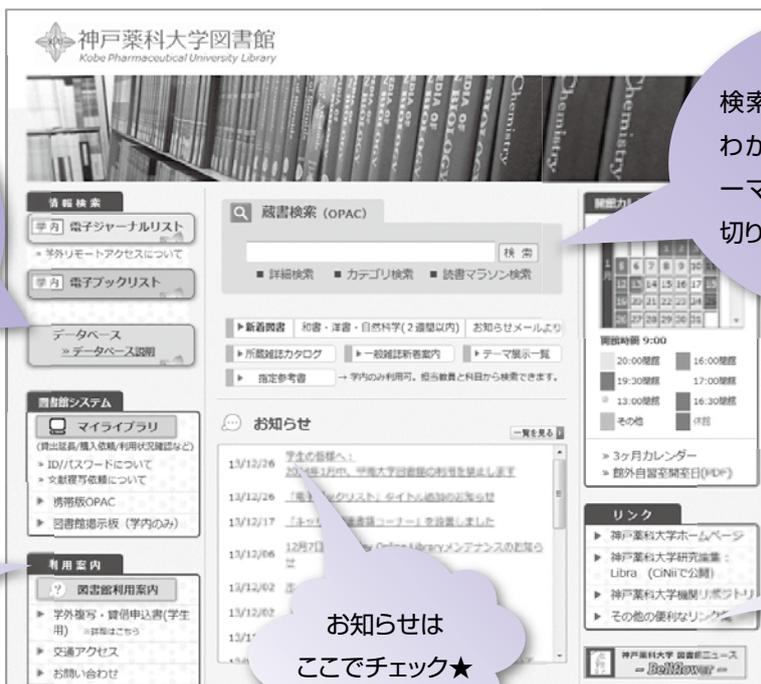
HOMEPAGE

COPYRIGHT

LIBRARY STATION

ポータルサイトとしての図書館ホームページ

図書館では利用者の皆さまの学習や研究に有益な情報を整理し、ホームページとして提供してきました。昨年12月、さらなる機能性や利便性、デザイン性を考えてリニューアルしました。



データベースの項目がスッキリしました。カーソルを合わせるとこれまでと同様の一覧が表示されます。

検索窓を中心に配置してわかりやすくしました。テーマや指定参考書などの切り口からも探せます。

図書館の情報をひとまとめに◎

お知らせはここでチェック★

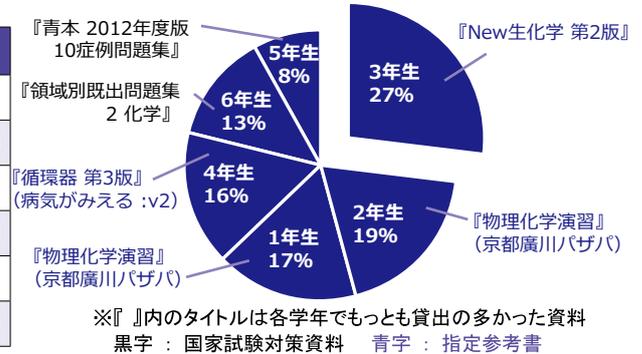
「図書館ニュース」はここからもご覧いただけます。

グラフと表で見る図書館統計

学年別貸出冊数統計

	2011年貸出冊数 (冊)	2012年貸出冊数 (冊)	2013年貸出冊数 (冊)
1年生	910 (12%)	1,202 (14%)	1,308 (17%)
2年生	1,044 (13%)	1,562 (19%)	1,391 (19%)
3年生	1,372 (18%)	1,674 (20%)	2,058 (27%)
4年生	2,131 (27%)	1,292 (16%)	1,221 (16%)
5年生	1,071 (14%)	1,035 (13%)	576 (8%)
6年生	1,271 (16%)	1,495 (18%)	941 (13%)

2013年 学年別貸出冊数割合



他学年と比較して3年生の貸出冊数の割合が高い傾向にあります。特に昨年(2013年)は顕著となりました。これは3年次からより深まる専門分野の学習、2年次から続く総合文化演習による課題解決の学習などのために、図書館資料を利用する機会が多いのではないかと推測されます。

また、各学年で貸出の多いタイトルは、下の学年は指定参考書、上の学年は国家試験対策資料がそれぞれで上位を占めており、利用資料とその目的も学年によって違いがあることが分かります。

データベース「Scopus」・「医中誌Web」利用統計

Scopus

	検索回数(回)	セッション回数(回)
2011年6月～12月	2,195	969
2012年	3,170	1,470
2013年	3,627	1,374

医中誌Web

	検索回数(回)	ログイン回数(回)
2011年	1,857	795
2012年	1,441	555
2013年	1,377	602

Scopus操作画面は英語表記のみでしたが、2013年4月から日本語版インターフェースが導入され使いやすくなりました!

「Scopus(2011年利用開始)」「医中誌Web(2009年利用開始)」共に導入から数年が経ち、知名度も上がりコンスタントに利用されるようになりました。特にScopusはPubMedやGoogle Scholarといった有名な無料データベースが存在する中で検索回数が増えています。Scopusの特徴として、参考文献や被引用論文へのリンクなどの多彩な機能や、全分野のジャーナルを収録していることが挙げられ、このため利用度が高くなっていると推察します。

英語文献を探す際の「Scopus」、医療文献検索の定番「医中誌Web」は大変身近なデータベースといえるでしょう。

契約電子ジャーナルアクセス数トップ5 (年間フルテキストアクセス数/回)

対象:電子ジャーナル契約中の学術雑誌 調査期間:2011年1月～2013年12月

	雑誌名	出版社	2011年	2012年	2013年	合計
1	Journal of Biological Chemistry	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	3,765	3,318	2,733	9,816
2	Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	1,011	2,015	2,386	5,412
3	Angewandte Chemie International Edition	John Wiley and Sons	837	1,863	※2,233	4,933
4	Organic Letters	American Chemical Society	1,049	1,587	1,961	4,597
5	Nature	Nature Publishing Group	1,731	1,577	894	4,202

※2013年1月～11月のアクセス数合計 (12月のアクセス数取得不可のため)

生化学・生物学分野の著名なジャーナルである『Journal of Biological Chemistry』が3年連続のトップとなりました。その他の上位タイトルも毎年大きく変動しておらず、これらは日常的に閲覧され続けているようです。電子ジャーナルは学内LANの端末であればどこからでもアクセスできます。

薬剤師のためのDI資料 28

① 『実践 妊娠と薬 第2版』

林昌洋, 佐藤孝道, 北川浩明 編集 じほう 2010

② 『理論調剤学』

山田安彦 編著 京都廣川書店 2013

実務実習担当教員として大阪赤十字病院を訪問する機会が多く、本誌寄稿に当たり、医薬品情報管理室を訪ねた。多くの薬剤師は病棟薬剤業務実施加算に係る業務を実施するため病棟に常駐しているとのこと。病棟では、すぐ隣で勤務している医師や看護師等の医療スタッフ並びに入院患者からの相談や質問に適切に対応する機会が増えているようである。

このような状況において、臨床の場でとくに活用されている書籍を数冊紹介していただいた。その中の1冊が①「実践 妊娠と薬 第2版」である。本書の各論では、汎用薬 273 薬剤の情報が網羅されており、さらに虎の門病院で20年以上継続されている「妊娠と薬相談外来」での約 10,000 例の相談例と

その出産結果の情報が盛り込まれている。

一方、病院並びに地域におけるチーム医療が発展する中、薬剤師が医薬品情報と患者情報を統合したうえで処方設計へ参画し、さらに薬物療法を評価することは適正使用推進のために調剤上欠かせない。②「理論調剤学」は臨床に薬学を幅広く適用する学問として、調剤学を理論的な観点から解説することに主眼が置かれている。用法・用量、副作用並びに相互作用と添付文書情報との関連についての記述も興味深い。

教授 杉山 正敏
(薬学臨床教育センター)

2014年度 学術雑誌について

2013 年度の購読タイトルをそのまま維持し、変更はありません。
また、電子ジャーナルコンソーシアムも以下のとおり継続して参加します。

- 【1】 American Chemical Society
- 【2】 Wiley-Blackwell
- 【3】 Nature
- 【4】 Oxford University Press
- 【5】 Rockefeller University Press
- 【6】 Science Online
- 【7】 ScienceDirect

- 【8】 SpringerLink
- 【9】 Thieme
- 【10】 Royal Society of Chemistry

各コンソーシアムによって年毎に利用できるタイトルが変更されることがあります。

お知らせ

- 2013年9月に図書館システムをリニューアルしました。
これに伴い、図書館ホームページのリニューアルも行いました。また、利用者用パソコンやプリンタも新機種に入れ替えました。3階閲覧室のプリンタからは、カラー印刷も可能となっています。
- 連載企画の『薬剤師のためのDI資料』ですが、No.28からは、薬学臨床教育センターの杉山正敏先生が寄稿してくださることになりました。
- 電子ブックにNew タイトルが加わりました。図書館ホームページ「電子ブックリスト」より利用できます。
- 機器利用室の大判プリンタで従来のA0サイズに加え、B0サイズの印刷も可能となりました。
学会のポスターセッションや、各行事の案内掲示等にぜひご活用ください。
- 第2自習室内において、就活に役立つ資料を集めた「キャリア関連書籍コーナー」を設けました。
主にSPI、適正検査、就活マナー等に関する書籍を展示します。
- 2013年11月15日に、神戸薬科大学機関リポジトリを正式に公開しました。
- データベース2件の契約を中止しました。
「化学書資料館」
「JapanKnowledge」